

兵庫縣漁業慣行錄

鹹水漁業之部

卷之十三

兵庫縣漁業慣行録卷之十三

鹹水漁業之部

播磨國揖西郡

第一章 漁制

第一節 捉魚類

第一項 保護ニ関スル事

荊屋村

漁具 舊藩時代ハ本村御菜網代場第一章第二節漁權ノ部

ナリ詳カ内ニハ何網ヲ問ハス隈リニ入漁スルヲ禁シ

若シ犯スモノアレハ訴ヘ出ヘシトノ令アリタリト

云フ

岩見浦

漁具 鯛大網ハ寶曆ノ頃創始セシカ其後文久三年ハ

月京極長門守時代其數ニ疊ニ制限サレタリ

磯採

室津村

網ハ天保年中舊藩主ニ於テ禁制セリト云フ

漁期 鰯魚漁期ハ舊藩時代六月ヨリ翌年二月ニ以上共

迄ノ旨觸達シアリ維新后今ニ慣行ス

漁具 鰯魚網ハ舊藩時代ニ於テ其數一疊ト制限セラ

レタリ磯緑網一名タ及凸緑網投網立網一名鰯ハ

往古舊藩主ヨリ禁制セラレシカ今ニ之ヲ慣行セリ

但鰯魚漁ニ限り時トシテハ凸操網ヲ使用スルヲア

リ

第二項 漁税ニ関スル事

濱田村

安永之項ヨリ毎年鰯魚運上トメ銀五匁二分五厘ツ、

ヲ御菜料ト稱シテ納メ明治二年銀目廢セラレシニヨ

リ鰯魚ハ永五百二十五文宛ヲ納メ来リシカ全八年ヨ

リ廢税トナレリ

菊屋村

御菜網代場第一章第二節ニ詳ナリニテ捕漁セシ鯛ヲ御菜

ノ鯛ト稱シ古来朝廷ニ獻納セシカ爾来漸ク淺海トナ

リ隨テ鯛魚不漁トナリシニヨリ代金ニ代ヘ御菜代ト

シテ年々銀十五匁宛ヲ納メシカ明治二年銀目廢セラ

レ金三步トナシ納メ来リシカ同八年ヨリ廢税トナレ

リ

岩見浦

鰯大網業ハ安永三年ノ頃運上トシテ一疊ニ付年々銀

三十目宛又磯漁場則親網代三ヶ處十字島鷺崎及枝網代

三ヶ處出字高洲宮合セ六ヶ處ニ對スル運上ハ一ヶ年ニ

銀十五匁宛ヲ納メ明治二年銀目廢止ニ由リ金三匁下  
改メ納メシカ全八年ヨリ廢稅トナレリ

室津村

鰯魚網ハ往古ヨリ運上トシテ株主九名ヨリ銀八百六  
十目又其七名ヨリ張網網代場ト唱ヘ談七ヶ所ノ運上  
トシテ銀二十七匁目以、ヲ年々納来リシカ明治二年  
銀目廢セラレ鰯魚網ハ金三兩張出シ網ハ金二朱ト改  
メ納メシカ同八年ヨリ廢稅トナレリ

第二款 規約及慣例

第一項 保護ニ関スル事

濱田村

漁具 中高網ハ不良ノ漁具ナルニヨリ明治十四年東  
加古郡ヨリ水郡ニ至ル沿海漁村申合セ使用停止ノ

規約ヨ結ヘリ規約書ハ参考書印南

漁法 鰯魚及鰯立網使用ニ際シ其場限り一度叩クヲ

許スノ規約ヲナセリ規約ハ参考書第一号ニ掲載ス

苜屋村

漁期 中高網使用停止ノ事濱田村ニ全シ

漁法 鰯及鰯立網使用法ノ規約濱田村ニ全シ

室津村

漁期 鰯魚ノ漁期ヲ七月ヨリ翌年三月迄ト定メシハ

舊藩制ヲ因襲セシモノニシテ今ニ之ヲ守リ尚生育  
 保護ノ夕ノ漁場ヲ定メ他漁ヲ停止シテ毎年寒中ニ  
 日ヲ撰ミ一回ニ之レヲ捕獲スルノ慣行ナリ 張網  
 一網名 鯨烏賊鱒花魚海鯽小鱸マカレ漢ニ用ユ漢業  
 ハ三月ヨリ五月五日ニ以上陰曆迄ヲ期トシテ使用スル  
 ノ慣行ナリ

漁具 磯緑網凸緑網投網立網ハ舊藩時代ノ制ヲ襲テ  
 今ニ其使用ヲ停止ス 一第 一章 第一 款 第 一 項 詳 カ ナ リ

漁場 本津港内字宮崎ノ端ヨリ字辨天ヶ端へ見通シ  
 四丁以内ハ年中又字藻振ヨリ字鳥崎ヲ見通シ八丁  
 以内ハ九月九日ヨリ又字藻振ヨリ字赤柘ヲ見通シ  
 九丁以内ハ十月十日ヨリ翌年二月ニ以上陰曆迄鰯魚生  
 育保護ノ為メ他ノ漢業ヲ停止ス

漁法 地曳大網ハ之ヲ使用スルニ當リ豫メ區域ヲ立  
 テ抽籤ヲ以テ捕漁ノ順番ヲ定メ毎日其区域内ニ於  
 テ相互ニ漢業ス若シ其順番ヲ犯ス 甲者ノ漢場所ニ於  
 テ片ハ其捕獲セシ魚ハ折半ノ順番ニ當レル者ニ領  
 以例ナリ ○地曳小網ハ前記ノ順番ヲ立テス互ニ沖  
 合ニテ魚群ヲ目撃セシ者ヨリ網ヲ投ス但シ甲者先  
 ニ目撃セシヲ乙者之ニ先立テ捕獲シタル片ハ其捕  
 獲物ハ折半シテ此ヲ甲ニ與フ ○立網 差一網名ハ日没ニ  
 差シ日出ニ揚ルノ法ニシテ夜中揚ルヲ許サス ○延  
 繩ヲ配ルニ他人ニ延繩上ニ過テ配置スル片ハ其  
 過失ノ釣ニ懸リタル魚ノミヲ取り延繩ハ其場ニ捨  
 置クモノトス ○釣漢ハ小船ニ乗組磯邊ヨリ凡二三  
 丁沖ニテ漢スルモアレ氏多クハ磯際ヨリ凡五間乃

至十間計リヲ距リ繫船シテ漢ス時ニ甲漢者魚群ノ場所へ繫船セシ成ハ乙漢者ハ甲船ヨリ凡三間程ヲ隔テ、繫船スルノ法トス

第二項 漢業ニ関スル事  
第一節 漢權

濱田村

磯漢場ハ東揖東郡興濱村境ヨリ西本郡荊屋村沖字投石迄本村ノ專漢場タリシカ明治五年五月ヨリ東加古郡西ニ見村ヨリ西本郡荊屋村迄凡十二里沖合ハ擢立八丁ニ擢シテ海ツ處ヨリト云フナレ氏要スルニ方言迄談沿海漢業者本村外十六ヶ村ノ入會漢場ト約定セリ定約書ハ参考書揖西郡第一号ニ掲載ス

般入會トス

荊屋村

東本村字中川揖保川中央ヨリ西岩見村字鷺崎ニ至ル凡一里陸ヲ距ル凡一里ノ間ハ本村ノ專漢場ニシテ他ノ入漢ヲ許サス本場漢權ヲ有セシトハ参考書揖然ルニ談漢場中御菜網代ノ三ヶ所御菜網代ノ由緒ハ参考スハ明治七年若干ノ料金ヲ徴シテ其網代使用權ヲ岩見村ニ許シ詳細ハ参考書揖西後ナ又其内ノ一網代ハ全村ニ賣却セリ故ニ目下ハ重モニ全村ニ於テ之ヲ使用スレ氏本村ヨリモ入漢スルナリ而シテ全村ニ於テハ別ニ之ヲ賣ムルナキヲ以テ現今ハ両村入會ノ姿トナリ居レ氏其實ハ二網代ノ漢權ハ荊屋ニ一網代ハ岩見村ニ有スルモノトス

岩見村

沖合漁場ハ濱田村ニ全シ

東濱田村西境揖保川支流中川ノ中央ヨリ西本村字鷺崎ニ至ル一里又沖手へ一里ハ御菜網代ト稱シ本村ノ專漁場觀ス屋村シテ參下ス該場ニハ親網代三ヶ所枝網代三ヶ所アリ村内望ノ者ニ入札ヲ以テ使用セシム落札ハ當村トス協其期ハ正月元日曆ヨリ百廿日間トス故ニ該期限内ハ落札者ノ外一切他人ノ入漁ヲ許サズ期限外ハ當村漁者一般入會漁業ヲナス又苧屋村漁者モ入漁スルノ例ナリ但シ漁場境界ニ付寛政年度室津ト爭論アリシカ舊幕府ノ裁判ニヨリ定マレリ詳細ハ参考書ニ掲載ス

沖合漁場ハ濱田村ニ全シ

室津

舊藩時代ニハ村方ト浦方ト區別ヲ立テ村方ノ者ハ漁業ヲ許サズ浦方ノモノハ海面ヲ特占シ自由漁業ノ權ヲ有セリ現今ニ至リ變スルナシ

東本津及岩見村トノ境字師々岩ヨリ正南飾東郡家島ノ内字男荒島ヲ見通シ沖手へ一里半西ハ本津及赤穂郡相生村トノ境字金崎ノ岬ヨリ家島ノ内字隠下島ヲ見通シ沖手へ一里南ハ本津港外字沖ノ唐荷島ノ南沖手八丁ノ處ニ至ル此間東西二里半ニシテ此区域内ハ本津專有磯漁場ニシテ往古ヨリ連綿タリ但本場ハ寛政年度隣村岩見村ト内津村トノ爭論ハ未舊幕府ノ裁許ニヨリテ定マリタルモノナリ詳細ハ参考書ニ掲載ス

鰯魚漁ハ往昔ハ株主九戸網株三十二戸アリテ其漁權

兵庫縣

ヲ專ラニシ又當時ニ藩主モ之ヲ保護シ漢時ニハ代官  
 ヲ派出セシメテ舊法ノ紊乱ヲ監督セリ維新后其法廢  
 シ鯰魚株亦絶ヘ目下本津中共同漢業トナレリ  
 本津專漢場中ニ七網代場アリ即チ第一字師子岩第二  
 字松ヶ浦及コアシロ第三字矢箱片越第四字地ノ濱城  
 ノ越第五字鳥崎太伏第六字尼谷拍第七字竹岡ダラリ  
 字金崎君島ノ各所ニシテ往昔ハ專漢主定マリ居リシ  
 カ維新後本津ノ共有トナリ八十八夜ヨリ五月節曆陰旬  
 迄ヲ限り望ノ者ヘ貸付ス此貸附中ハ他人ノ入漢ヲ許  
 サス  
 鰯漢場ハ東加古郡高砂ヨリ西備前國境迄ノ間トス  
 釣漢場ハ南飾東郡家島周圍ヨリ西赤穂郡相生村ノ内  
 字鬘島迄傍及坂越浦地先備前國字角井島鶴島等ノ各

場トス

沖漢場ハ濱田村ニ全シ

第二節 仲間加入ノ仕来

濱田村

本村ノ者新ニ漢業ヲ營マントスルハ漢者ノ承諾ヲ  
 經仲間入ト稱シ漢者一同ヘ酒肴料金二圓ヲ贈ルモノ  
 トス

苧屋村

本村ノ者新ニ漢業ヲ營マントスルハ漢者取締人  
 へ通報シ仲間入ト稱シ漢者一同ヲ酒肴ヲ以テ饗應  
 ス談費ハ凡金一圓トス

岩見村

新ニ漢業ヲ營マントスルハ豫メ漢者取締人へ通報



スルノ例ナリ

第三節

他方ノ漁夫來澳ニ係ル手續

濱田村

荊屋村

岩見村

他方ノモノハ入澳スルヲ許サ、ルモ備前國日生浦ノ漁者ニ限り通行澳ト唱へ稀ニ入澳セシムルナリ然レトモ多數ノ入澳ハ之ヲ許サ、ルノ申合ナリ

第四節

販賣ノ仕方

濱田村

捕澳セシ鰯魚ハ飾東郡飾磨津へ又塩漬トナシテ各地へ輸出ス海鰯其他ノ諸魚ハ揖東郡新在家村本村ヨリ九六丁ノ定市場ニ運輸シ其日勘定ヲ以テ取引ス此際問屋ハ濱立ヲナシ仲買及商人ヲ集メ競賣ス但青海苔雌海苔ハ直ニ各地商人ニ販賣ス

荊屋村

捕澳セシ魚類ハ揖東郡新在家村定市場本村ヨリ九六丁ニ運輸販賣ス問屋口錢ハ三分ニシテ其日勘定トス

岩見村

捕澳セシ魚類ハ直ニ本村ノ市場へ運輸シ其日勘定ヲ以テ取引ス此際問屋ハ仲買商人ヲ集メ競賣ス問屋口錢ハ一割ニ歩ナリ出買ト稱スルアリ澳船ニ乗込沖合へ乗出シ澳船ニ就キ捕魚ヲ買取ル者ニシテ概子即金ヲ以テ取引ヲナス然レ氏本村ニ於テ八十中七八ハ本村市場ニ輸送ス

室津

捕澳セシ魚類ハ直ニ本津定市場へ運送シ即金ヲ以テ取引ス此際問屋ハ濱立ヲナシ仲買商人ヲ集メ競賣ス

問屋口錢ハ一割五分ナリ本津ニハ扱テ賣買ヲ為サ、  
 ル申合セアリシモ當今ハ出買ト稱シテ沖合ニ漁船ニ  
 就キ捕魚ヲ買取り概テ即金ヲ以テ取引ヲ成スアリ依  
 テ市場ヘノ運送ハ減少ノ景況ナリ  
 第五節 濱田村維持並救恤

濱田村

往古ヨリ漁獲代金百分ノ五ヲ蓄積セシカ頻年ノ不漁  
 及ヒ明治十五年度ハ暴風雨ニ為ノ非常ノ困弊ニ陥リ  
 タルヲ以テ其過半ハ漁者一同ヘ分與シ又同十六年備  
 前國日生村中高繰網漁者侵漁ニヨリ官ノ裁判ヲ仰キ  
 為メニ要セシ夥多ノ費用ニ悉皆消費シ去リ爾來之ヲ  
 再興スルヲ能ハズ  
 漁船若シ海中ニ於テ颶風激浪ニ罹リタルヲ見認メシ

仮屋村

難破船救援ノ一濱田村ニ全シ

岩見村

往古ヨリ漁獲代金ノ一分ヲ蓄積シ又網代場使用料一第  
 一章第ニ款第一項第其他雜収金等アリ之レヲ合シ多數  
 一節ヲ參觀スヘシ其額トナレリ然ルニ文久年ノ頃不漁打續キシ為メ  
 ノ金額トナレリ然ルニ文久年ノ頃不漁打續キシ為メ  
 之レヲ支出シテ漁夫ノ困弊ヲ救ヒシヨリ其約遂ニ破  
 レタリ維新後復種々評議シ明治五年ノ頃漸ク之レヲ  
 再興シテ網代場使用料々金同年及漁獲金高ノ五厘ヲ蓄  
 積シ以テ一浦共有トセシカ全十五年夏暴風怒濤ノ為  
 ノニ破損シタル本港波止場ヲ修繕セシ為メ悉皆之ヲ

費消シ尚不足アリシニヨリ其法亦遂ニ廢止セリ  
海岸ニ於テ網外ニ脱逸セシ魚類ハ救恤ノ目的ヲ以テ  
手間取ニ拾ハスルノ例アリ  
難破船救援ノ一濱田村ニ全シ

室津

當津定市場賣揚金千分ノ六ヲ當津ハ益金トシテ積立  
テ當津ノ共議費ニ充テシム又山越シト稱ヘ談金ノ利  
息ヲ以テ毎年八月一月ノ兩度ニ渙者一人ニ付金一圓  
乃至五圓ヲ貸與シ而シテ日々ノ賣上金ノ内ヨリ二割  
宛ヲ取立テ返濟セシタ之レヲ保護スルノ慣行アリ  
海岸ニ於テ網外ニ脱逸セシ魚類アラハ救恤ノ目的ヲ  
以テ手間取ニ拾ハスルノ慣行アリ  
難破船救援ノ一濱田村ニ全シ

第三項 雜事

濱田村

祝ヒ 鰯魚網及白子網業ノ渙者出渙セントスルハ其  
手配全ク終ルヲ網卸兼唱ヘ家族雇夫共ニ集リ當日  
ノ渙獲物ヲ以テ下物トシ相互ニ飲酒シテ祝ス  
雇夫給食 雇夫ハ概子辨當持参ナリ然レハ渙業ノ都  
合ニヨリ臨時握リ飯ヲ給スル事アリ漆エハ多クハ  
菜漬物トス時トシテ空捕獲ノ雜魚類ヲ調理シ又醬油  
味増エ與フルトテ飲料ハ湯或ハ飯入湯ヲ用エ  
祭祀禁忌 渙夫ノ信仰スル所ノ神ハ氏神貴布祢大神  
惠美須大神ナリ毎年六月十日陰曆惠美須祭日ト唱ヘ  
渙夫相集リ談兩神ハ酒饌ヲ供ヘ年中ノ大渙ヲ祝ル  
次ニ神酒上クト唱ヘ渙者相集リ酒ヲ吞ミ渙業ニ関

スル一切ノ事項ヲ談話シ或ハ各自漁場ノ位置等ヲ  
談定メ○鯨鯢魚ヲ追ヒ来ラヌヲ以テ漁者ハ之  
ヲ神ハ如クニ尊敬シ其来泳スルヲ待ツモノアリ

荊屋浦

祭祀禁忌 漁夫ノ信仰スル所ノ神ハ惠美須神トス又  
漁産ニ産婦アルハ産忌ヲ稱シ三日間休漁スルハ  
例ナリ

岩見浦

祝ヒ 出漁セントスル時其手配リ全ク終ルヲ網却シ  
ト稱ヘ家族雇夫共ニ集リ先ニ蛭子神ニ神酒其他ノ  
物ヲ供シ相拜シテ後其漁船ニ衆リ組シ船印ハ職或  
押立テ港内ヲ二三回漕キ廻リ是ヨリ造酒開キト唱  
ヘ一統打混シ祝宴ヲ張ルノ例ナリ又網上ケト稱シ

漁業終リ雇夫ヲ解散セントスル片其雇主ヲ若ト云

リ網ヲ持テ漁夫ヲ雇ヒハ祝筵ヲ張ルト網却シノ例

ニ同シ而メ此時雇役賃食料等ノ勘定ヲナスノ例ナ

リ○鰯大漁ノ時ハ之ヲ方言セゴセト云ヒ雇夫手間

取出買高ニ至ル迄赤飯ヲ與ヘ或ハ酒筵ヲ開キ共ニ

祝スルノ例ナリ

雇夫給食 雇夫ニ食事ヲ給スルハ朝五時昼十二時夕

七時ノ三度トス其量ハ一回分一人ニ付白米ニ合五

夕ト定ム但臨時風波ノ為メ或ハ大漁或ハ不漁ナル

事アル時ハ其時ニ臨ンテ飯ヲ與フルト有リ平常ハ

船頭以下一處ニ列座シ喫食セシム中飯ノ調理者ハ

脇櫓押ノ職掌トス飯ハ添ニハ菜漬物及漁獲ノ魚類  
ヲ用ヒ醬油ヲ以テ之ヲ調理ス飲料ハ濱田村ニ全シ

祭祀禁忌 漁夫ノ信仰スル所ノ神ハ其數五就中最深  
 シノ歸依スルハ蛭子神金毘羅神龍神住吉神ニシテ大  
 漁ノ片ハ之ヲ祭りテ尚大漁ヲ祈ル○産忌ノ事ハ葺  
 屋村ニ全シ  
 室 津

祝ヒ 出漁セントスル片ハ網卸シノ一岩見村ニ全シ  
 又網上ケノ片ハ関係者相集リ酒筵ヲ張り或ハ赤飯  
 ヲ食シテ之ヲ祝スルノ例ナリ但祭神ハ氏神加茂神  
 トス○鰯其他大漁ノ片ハ祝筵ヲ張ル一岩見村ニ全  
 シ  
 雇夫給食 雇夫ノ食事ハ岩見村ニ全シ但米量一回一  
 人分白米三合トス  
 祭祀禁忌 漁夫ノ信仰スル所ノ神ハ其數五アリ就中

最歸依スルモノハ氏神加茂神社トス網卸ノ片ハ漁  
 船ヲ字宮崎ニ繫キ神酒洗米塩等ヲ供ヘ神職該船ニ  
 乘リ大漁ヲ祈ル祈禱終リ供物ヲ撒シ其塩ヲ以テ漁  
 船ニ撒布シテ船ヲ清メ漁者ハ神酒ヲ吞ミテ神ノ祝  
 福ヲ祈ルナリ○漁戸ニ産婦アル片ハ産忌ト稱シ四  
 日間休漁ス又又物類ヲ海中ニ沈失スル片ハ氏神ニ  
 詣テ祈禱ヲナス蓋シ此場合ニハ不漁ト云フヲ以テ  
 ナリ

第三款 犯則違例ノ處分

濱田村

明治五年及十四年ニ規約セシ漁具漁法ノ制限ニ違背  
 スル片ハ清酒ヲ徴シ或ハ漁具等ヲ預ルノ約ナリ○漁  
 船ノ難ニ罹リタルヲ見認メテカラ知ラサル状ヲナシ  
 他日發露スル片ハ漁浦中各船相繋ク片其仲間ニ入レ  
 ス若シ事情ヲ詳カニシ詭ルヲアル片ハ之ヲ斟酌スル  
 可マリ

岩見村

磯操網ハ不良ノ漁具ナルニヨリ之ヲ禁セシカ嘉永年  
 度之ヲ使用セシモノアリ漁夫一体ノ迷惑ニ及ハント  
 スルヲ以テ或ハ郷藏今ノ監獄ノ輕キモ入レ又輕キハ閉門  
 青竹等ヲ懲戒ヲ與ヘタルヲアリ又私約ノ違犯者ハ船



至リ其脊ニ青色ヲ帯ヒ長ケ一尺十一月ニ至リ凡ニ寸  
トナル 濱田村調

烏賊

種類多シ就中多ク渾スルモノヲ真烏賊トス四月頃大  
ニ産卵シ其年ニ其甲四五寸トナル 室津村調 ○三四月  
岩見ヨル調

鰯魚

三四月頃河海ノ別ナク泥中ニ産シ七月頃凡ニ寸五六  
分トナル之ヲエビト云ヒ十一月頃ニ至リ一尺内  
外翌年ニ凡ニ尺五六寸トナル之ヲ鰯ト云フ 濱田村調

鮫

四月ニ産卵シ其年ニ四五寸トナル之ヲツバス二年ニ  
シテ一尺許トナル之ヲマスト云ヒ三年ニシテ三四尺

トナル之ヲマスト云フ 岩見ヨル調

花魚

六月頃孵化ス一ケ年ヲ経レハ大サ四寸位トナル之ヲ  
コイナト云フニ三年ヲ経レハ一尺許トナル之ヲニベ  
ト云フ爾後生長シ終ニ一間許ノ大サトナルモノアリ

最モ佳味ナルハ四月頃トス 室津村調 全シニ

海鰯

孵化後百日ヲ経レハ大サ二寸許トナリ四年ニシテ一  
尺七寸許トナル十月頃ヲ最モ佳味トス

鯛

四月産卵ス當テハ僅ニ二三寸トナリ三才ニテ一尺五  
六寸乃至二尺トナル但シニ歳ニモハ當海ニ来ラカ  
ルユヘ詳カナラス 岩見ヨル調



鱒

三四月産卵シ翌年三四月至リ七八寸乃至一尺ト  
ナル岩見村調

鱒

孵化後凡百五十日ヲ経テ三寸許ナル之ヲツナシト  
云フ一年ニシテ五寸以上トナル之ヲ鱒ト云フ四五月  
頃大サ五六寸許ナルモノヲ最モ佳味トス室津調查

小鱒

三四月頃産卵シ七月ヲ経過シ大ナルハ三寸トナル  
其後ハ去リテ来ルコトナキニヨリ詳カナラズ岩見村調

小鮎

淡鹹水ノ間ニ於テ十二月ヨリ翌年一月迄ノ交ニ産卵  
シ四月三至レハ川三湖ニナリ濱田村調

海老

四月産卵シ一ケ年ヲ経レハ延長凡五六寸ニ至ル岩見村調  
查ニヨル以下全シ

鱒

四月産卵シ當歳ニテ一尺二三寸ニ歳ニテ凡三尺許ト  
ナル

鱒

四月産卵シ當歳四五寸ニ歳ニテ凡一尺二三寸トナル

鱒

孵化後三年ヲ経過シ二尺許トナル此量凡其當歳ノ大  
サ四五寸ニ至ル之ヲセイト云ヒ二年ニシテ凡ソ一尺  
此量凡ニ至ル之ヲハネト云フ



鱸	小鱸	白子鰯	鯨	雌苔藻	雜喉	鯖	鯨	海鰻	手長章魚	鰻	昆布海苔	小鮎	小鰹	鰶	真鰹	鱒	真章魚	鰻	ツバス	章魚	鰶	海鰻
		自六月 至八月		自十二月 至翌年正月								自三月 至五月										自四月 至五月
		六月		一月								三月										十一月
	自九月 至十一月													自三月中旬 至五月	自四月 至五月	自六月 至八月					自四月 至五月	自四月 至五月
	十月													五月初旬	五月上旬							
自月中旬 至六月上旬	自九月 至十月	自八月 至九月			周年	六月	自五月 至六月上旬	周年		自八月 至十月	自二月 至五月	一月	自六月 至九月	自三月中旬 至六月中旬	四月 五月	自六月 至七月	六月 七月	自五月 至七月	自五月 至七月			自三月 至五月
	十月									九月				五月上旬	五月上旬	六月 七月	六月					五月上旬
自三月中旬 至六月上旬	自十月 至十二月	自八月 至九月	自十一月 至翌年正月			自六月 至八月	五月 六月	自十一月 至翌年三月	七月 八月	自九月 至十月		二月 三月	自七月 至十月	自四月中旬 至六月中旬	五月 六月	自六月 至七月	七月 八月	自七月 至八月	自七月 至八月			自四月 至六月
	十一月						五月 六月			十月				六月上旬	六月上旬	七月 八月	七月					六月上旬

第二項 氣象

春ハ南風  
夏ハ東南風  
秋ハ北風  
冬ハ西風  
吹ク時ハ  
魚海岸ニ群来スルヲ常トス之ニ反シ北東風キ夕ノ時ハ

兵庫縣

散乱シ去ル○氣候頃々シテ昼南風ギヤト云フナ微々トノ吹  
 キ来ル時ハ魚群来ス○淡路千光寺山ニ雲多ク起ルハ南  
 風強ク吹クノ兆ナリ又小豆島螺旋尻山ニ東方ヨリ雲懸  
 ル片ハ辰巳風ト云フ起リ暴烈トナル又其西ヨリ懸ルハ  
 晴天ノ兆ナリ又全處ニ下ヨリ雲ノ起チ上ルハ北風ヲ催  
 スノ兆ナリト云フ○海面濁リ赤ク照ルハ暴風ノ兆ニシ  
 テ漁者及ヒ船衆ノモノハ最モ注意スト云フ

第三項 群来ノ前兆

鯨漁獲アリ或ハ鷗鳥海上ニ群飛スルヲアルハ鰯魚群来  
 ノ兆ナリ

第四項 去来ノ期節並方向

其年ノ氣候ニヨリ遲速アリト雖凡三月頃ヨリ来リ六  
 七月頃ニ去ル而シテ多ク阿波鳴戸峽ヨリ往来ス

第三致 漁場

濱田村

區域 鰯魚及小鮎漁場ハ東加古郡西ニ見村西境ヨリ  
 西本郡新屋村ニ至ル磯漁場ニ於テス○海鰯漁場ハ  
 前項漁場ノ沖合ニ於テス○鰯漁場ハ東加古郡西ニ  
 見村ヨリ西赤穂郡沖逆里程十四五里南ハ飾東郡家  
 島周圍ノ海中何處ヲ問ハス該魚ノ在ル所ニ於テス  
 ○蛤漁場ハ東揖東郡興濱村新在家村沖ヨリ西本郡  
 黒崎村沖字四十島ニ至ル干瀉ノ間トス○雌海苔ハ  
 東揖東郡興濱村沖合ヨリ西本郡新屋村沖ニ於テ採  
 取ス

潮流 潮流ハ東西ニ往来ス而シテ満潮ノ時ハ明石海  
 峽ヨリ流レ来リ最モ急流ニシテ宇高洲ノ邊ハ流弊

恰毛川流ノ如シ  
水底ノ概狀 海岸ニ接近セシ處ハ附寄洲アリ又ハ深  
サ二三尋ナルアリ此處ヲ大棚口ト云フ水底ハ皆泥  
ニシテ春秋ノ別ナク毎夜干潮ノ時魚族多ク群来ス

新屋村

區域 漁場ハ悉テ岩見村ニ全シ然レ氏僅々タル漁業  
ナレハ該漁場内ニテ營メリ

潮流 濱田村ニ全シ

水底ノ概狀 概子濱田村ニ全シ

岩見村

區域 小鮎漁場ハ當村港内及室津海境ヲ最上トス其  
處ハ僅ニ方十町ノ間トス往古ヨリ十四五年前迄ハ

盛漁ナリシ其後衰ハ大漁アリシナリ

津ノ漁者多ク来漁スルナリ○磯漁即チ鯨海鯽鳥

賊鱒花魚ツハス、鰻魚、小鮎、鰈、蝦其他ノ雜喉漁場ハ東

濱田村境字中川揖保川支流中央ヨリ西室津境御々岩迄

凡五十町沖手凡一里ノ間トス○鰯、鰯漁場ハ紀淡阿

攝、護及兩備等各地ノ沖合トス○鰯、鰯漁場ハ東加古郡

高砂沖ヨリ南家島周圍西備前地方迄ノ間トス

潮流 濱田村ニ全シ

水底ノ概狀 海岸ニ接近セシ處ノ狀ハ濱田村ニ全シ

陸ヲ距ル凡三十町ノ沖ニハ小貝貝名生産ス其處ハ東

西凡一里南北凡二三町ノ間ニシテ泥中ヨリ其貝ハ

頂ヲ現ハシ多ク漁網ヲ損スト云フ又此處ニ海藻ヲ

生ス其長凡二三尋アリ魚族ノ棲息ニ適スルモノ  
如シ

室津

區域、鰯、小鮎、鰹、海鰯、烏賊、鱒、花魚、小鱸、小鰻、鮫、蝦、鰈、鰯、鰹、  
 以バス、其他雜喉、漁、當津磯、漁場、於テス、  
 漁場、岩見村、全シ、  
 潮流、濱田村、全シ、  
 水底ノ概狀、海岸ニ接近セシ處ハ四尋乃至六尋ニシ、  
 テ其底ハ皆岩石ナリ其次ハ泥ナリ又沖中地ト三ヶ  
 ノ唐荷島アリ其周圍ハ深サ八尋乃至廿五尋此水底  
 ハ浪打際ヲ離ル、凡十二三間ノ間ハ大石ニシテ其  
 次ハ総テ泥ナリ又談島ヨリ子ノ方ニ當リ暗礁アリ  
 此處ハ皆魚族群集ノ處トス

第四款 本會漁船ノ數

室津

一 鰯、海鰯、烏賊、鱒、花魚、ツバス、磯、漁場  
 小鱸、小鮎、鰻、蝦、鰈、鰯、鰹、  
 漁船總數 九十三艘 明治十九年調

一 飾東郡飾磨津漁船 六艘

一 赤穂郡相生村漁船 七艘

一 本郡濱田村漁船 五艘

一 本津漁船 七十五艘

當漁場ハ七八年前迄ハ本津ノミニテモ八十二艘位  
 アリシ力近年ニ至リ漁獲減少ノ為ノ本文ノ數トナ  
 レリ

一 鰯、漁場

漁船總數

十六艘

明治十九年調

内

飾東郡家島漁船

二艘

赤穂郡相生村漁船

三艘

本郡岩見村漁船

三艘

本津漁船

八艘

當漁場ハ六七年前ハ當津村ノミニテモ十一艘許

アリシカ追々減少シ遂ニ本文ノ數トナレリ

一 鱈 鯖 漁場

漁船總數

五十五艘

明治十九年調

内

長門國漁船

七艘

周防國漁船

五艘

安藝國漁船

八艘

備後國漁船

三艘

伊豫國漁船

十二艘

讃岐國漁船

十艘

飾東郡家島漁船

三艘

赤穂郡坂越村漁船

二艘

赤穂郡相生村漁船

三艘

本郡岩見村漁船

一艘

本津漁船

一艘

當漁場ハ八九年前迄ハ盛大ニシテ凡二百艘モア

リシカ其後ハ追々衰微シ遂ニ本文ノ數トナレリ

苧屋村

一 建網漁場

漁船総数 十艘

明治十九年一月調

内

他村漁船 七艘

本村漁船 三艘

岩見村

一小鮎漁場

漁船総数 六艘但一艘明治十九年一月調

内

室津漁船 二艘

本村漁船 四艘

當漁場ハ今ヲ距ル七八年前迄ハ本村ノミニテモ十

艘許アリシカ近年大ニ衰へ遂ニ本文ノ數トナレリ

一鱒、海鰻、烏賊、鱒、花魚、ツバス、漁場

漁船総数 七十二艘但一艘明治十九年一月調

内

室津漁船 六艘

濱田村漁船 四艘

苅屋浦漁船 二艘

本村漁船 六十艘

當漁場ハ數年前迄ハ稍隆盛ノ見込アリシカ明治十

五年頃ヨリ年々衰頽シ遂ニ本文ノ數トナレリ

一 鱒 鱒 漁場

漁船総数 百四十七艘 明治十九年五月調

内

防長藝備讃豫地方漁船 七十艘

赤穂郡漁船 四十九艘



飾東郡家島漁船 十四艘

室津漁船 七艘

本村漁船 七艘

當漁場ハ明治元年頃迄ハ大ニ盛ニシテ漁船凡二百

余艘モアリシカ爾後追々衰頽シ遂ニ本文ノ數ト十

レリ

一 鰯漁場

漁船總數 百三十五艘 明治十九年五月調

内

家島漁船 五十艘

室津漁船 三十五艘

濱田村漁船 二十艘

本村漁船 三十艘

當漁場白子網漁ハ從來盛衰ナシ秋冬ノ鰯網ハ衰微

ノ方ナリ



漁

種別	濱田村	苅屋村	岩見村	室津	合計	白網 <small>一名網敷</small>	雌海 <small>一名網敷</small>	鮫網 <small>一名網敷</small>	雜魚 <small>一名網敷</small>	雜魚 <small>一名網敷</small>	雜魚 <small>一名網敷</small>	雜魚 <small>一名網敷</small>	真章 <small>一名網敷</small>
二間漁船	一〇	五	九		一〇八	五	八五						
一間漁船					一八三								
三間漁船			七	四	一一								
種別	濱田村	苅屋村	岩見村	室津	合計	白網 <small>一名網敷</small>	雌海 <small>一名網敷</small>	鮫網 <small>一名網敷</small>	雜魚 <small>一名網敷</small>	雜魚 <small>一名網敷</small>	雜魚 <small>一名網敷</small>	雜魚 <small>一名網敷</small>	真章 <small>一名網敷</small>
船現數	左ノ如シ	五	九	四	一八三	五	八五						
第二項	漁船												
合計													

系

第六款 漁法

鰯魚

曳網 津名郡ニ全シ

烏賊魚

張網 鰹張網ヲ以テ鰹魚ト同時ニ漁スルモノトス 津室

ヨ調査ニ

鰯魚漁

敷網 鰹魚ハ當津港内ニ於テ寒中良期ヲ撰ヒ一回ニ

捕獲スルノ法ナリ抑モ鰹魚ハ六月頃港内ノ泥中等

ニ於テ浮化シ後近海ニ出テ成長シ寒候ニ至リ再ヒ

港内ニ来リ生息スルモノナリ而シテ午後四時頃港

外ニ出テ游泳シ翌日午前五時頃ニ歸リ来ルモノナ

リ依テ之ヲ十分養成シ最早良期ニ至レハ其出游ノ

期ヲ考ハ港内海底ニ網ヲ敷キ其上ヲ石ニテ壓サヘ  
 搗キ埋メ込ミ以テ網ノ姿ヲ隠ス但網ニハ週邊ニ尋  
 毎ニ繩網ヲ付ケ而シテ三十艘ノ漁船ニ入家網ノ周  
 圍ニ居リテ該網ヲ取り以テ魚ノ歸ルヲ俟ツ斯クシ  
 テ翌朝ニ至レハ色見ナルモノ近傍ノ山ニ上リ其飯  
 来ヲ視察シ若シ該網ノ内へ入りタリト認レハ色見  
 ハ即チ指揮ヲナシテ之ヲ船中ニ繰リ揚ケシム既ニ  
 繰リ終ラントスレハ玉網ヲ以テ魚ヲ扱ヒ揚クル十  
 リニ室ヨル調査  
 叩キ網 該網ハ鰯魚ノ外尚鱒、鯉、鯪、小鱸等闇夜ニ衆シ  
 磯漁ニ用エルモノニシテ小漁船ニ艘ニ各七人ツ、  
 衆組ニ該網一疊ヲ分載ス漁夫ハ常ニ舳ニイミ海面  
 ヲ視察ス魚若シ来游スル一アレハ水必ス動揺シ潮

水忽チ光ヲ現スト方言<sup>ト云フ</sup>キ即チ網ヲ入レ其網ヲ陸ニ  
 曳キ手早ク手繰ト共ニ船ヲ岸際ニ引キ寄ス此際竹  
 竿ヲ以テ水面ヲ叩キ或ハ瓦礫ヲ乱投シテ魚ヲ網中  
 ニ駭リ而シテ網ヲ曳揚ケ捕収ス<sup>岩見浦調</sup>  
 打網 揖東郡ニ全シ  
 建網 漁期十月ニ至レハ磯漁場ノ洲瀆ニ於テ該魚路  
 ヲ量リ日没ノ頃ヨリ竿ヲ凡ニ三間毎ニ建テ該網ヲ  
 張り置ケハ魚之ニ掛リ脱去スル一能ハス<sup>查新屋村調</sup>  
 四艘張網 漁期八月ヨリ十一月迄ニシテ漁船ニ艘ニ  
 各三人衆組ニ該網一疊ヲ積ミ外ニ鵜繩船ニ艘ニ各  
 二人衆組ニ鵜繩ヲ積ミ漕出ス鵜繩ハ「モヤイ」シ<sup>相ニ</sup>  
 繫<sup>スル</sup>儘先進スレハ網船ハ擢ヲ押シテ其次ニ進行  
 セリ其適度ノ場所ニ止マリ舳ヲ陸ニ向テ網ヲ下シ

系

左右ニ引キ張リ而メ網ノ後端ハ口取名漁具ニテ之レヲ水底ニ押サヘ入レ魚ノ入ルニ便ス斯クテ手配リ全ク了レハ雙方合圖ヲナシ竊繩ヲ左右ニ引キ沖合ヲ巡リ遂ニ網船前ニ迄来リ以テ魚ヲ網中ニ駈リ入ルカ如クニホシテ止ム此ニ於テ口取ヲ去リ隨テ網ヲ曳捕獲スルモソトス濱田ヨ村ル調

蛤漁

蛤搔 年中ノ漁業ニシテ該漁具ノ柄ノ上端ヲ肩ニ掛ケ干馮或ハ淺所ニ於テ却歩シツ、砂中ヲ搔キ以テ捕收ス濱田ヨ村ル調

鮫漁

併繩 磯漁ニシテ九月ヨリ十一月迄ヲ期トス漁船一艘ニ二人衆組ミ一人ハ艚ヲ押シ二人ハ繩ヲ投ス餌

ハ小鯿魚、鱸ノ生活ノ儘ヲ用エ暫クシテ之レヲ手繰ルモノトス但釣ニ掛リタル片ハ釣糸ヲ切断シテ脱去スルヲアルニヨリ之ヲ慮リ掛リタル魚ハ其自由ニ任セ糸ヲ引クニ幾分之ヲ弛メ自然水上ニ浮カハシノ玉網ヲ以テ之ヲ扱ヒ捕ルナリ室津ヨル調

花魚漁

張網 鯿張網ヲ以テ鯿魚ト同時ニ漁スルモノトス室津

ヨ調  
ル查  
ニ

鯿漁

叩網 鯿魚叩網ニテ鯿魚ト同時ニ漁スルモノトス見岩

ニ村  
ヨ調  
ル查

海鯿漁

併繩 磯漁ニシテ漁期ニ至レハ漁船一艘ニ二人衆組

談具三桶ヲ併一繩三桶トス尋ヲ使用スルヲ通常トス餌ハ  
 シヤクノ海底ノ砂ニ穴ヲ穿ラ用ユ抑モ談魚ハ餌ノ海  
 底ニ沈マサル間ニ喰フモノナレハ併繩ヲ配リ終レ  
 バ直ニ之ヲ繰リ上ルモノナリ室津調査

張網 鯨張網ヲ以テ鯨魚ト同時ニ漁スルモノトス津室

ヨ調査ニ

釣 赤穂郡ニ全シ

真章魚漁

壺繩 明石郡ニ全シ但漁期六月ヨリ十二月迄ニシテ  
 漁船一艘ニ二人衆組ミ漕出テ海中ニ投ス而シテ其  
 投スル場所ハ時期ニヨリ一定セス暑氣甚シキ時ハ  
 地方ヲ去ル凡二十町許ノ處ニシテ其深淺ニヨリ七  
 尋乃至十尋毎ニ壺一個又磯際ノ場所ナルキハ五尋

許毎ニ一ケヲ付スナリ是甲ノ壺ヲ揚クルニ乙ノ壺  
 動クキハ章魚恐レテ脱出スルヲアレハナリ故ニ海  
 ノ深淺ヲ量リ毎壺ノ距離ヲ伸縮スルモノトス而シ  
 テ沖漁ハ一昼夜ハ一回磯漁ハ二ツ、ナリ岩見浦調査

鱒漁

張網 鯨張網ヲ以テ鯨魚ト同時ニ漁スルモノトス津室

ヨ調査ニ

叩網 鰯魚叩網ヲ以テ鰯魚ト同時ニ漁スルモノトス

岩見村調査ニ

小鮎漁

白子網 白子鰯用ノ白子網ヲ以テ漁スルモノナリ其  
 期ハ二月網ヲ卸ロシ三月ヲ終リトシ漁船ニ艘ニ談  
 網一疊ヲ分載シ各五人衆組ミ陸ヲ距ル凡一丁許リ

鯨漁

ノ沖合ニ於テ網ヲ海中ニ敷キ左右ニ別レ環形ニ磯邊ニ漕キ寄セ五人ノ漁夫ハ船中ニ於テ繰リ揚ケ外二人ハ船ヲ陸ニ繋キ其船ト共ニ一齊ニ陸ニ引寄せ遂ニ網ヲ繰リ取り玉網ヲ以テ之ヲ抄ヒ收ム  
室津調  
ル

張網一名鯨網 飾東郡鯨坪網ニ全シ

叩網 鯨魚叩網ヲ以テ鯨魚ト同時ニ漁スルモノトス

岩見ヨル調  
查ヨル

海鰻鱺漁

併繩 本漁ハ年中ノ業ニシテ一艘ニ付三桶ヲ使用ス

餌ハ春ハ玉筋魚夏ハ小蝦秋ハ鰯冬ハ小鱈ヲ用フ見

岩見ヨル調  
查ヨル

鯖漁

鯖鯖網 五月上旬ヨリ六月上旬迄ノ漁期ニシテ使用

法赤穂郡鯖縛網ニ全シ 室津調  
查ヨル

鯖漁

鯖鯖網 六月上旬ヨリ七月上旬迄ノ漁期ニシテ使用

法赤穂郡鯖縛網ニ全シ 室津調  
查ヨル

雑魚漁

手繰網 飾東郡ニ全シ

ウタセ網 飾東郡雑魚為持網ニ全シ但十一月頃ハ多ク地方近海ニ於テ使用シ一夜五六回之ヲ引キ揚ク其他ノ時機ニハ沖合ニ於テ使用シ一夜引揚クル  
岩見ヨル調  
查ヨル

雌海苔採



十二月ヨリ翌年三月迄ノ間小漁船ニ乗組ミ淡鹹水ノ岩礁ニ就テ手自カラ摘取ルモノニシテ採具ヲ要セズ  
濱田村調

白子鰯漁

白子網一名鰯小網該魚ハ多ク地方ニテ漁獲スト雖氏時トシテハ沖合ニ於テ曳クアリ其期ハ六月下旬ヨリ八月下旬迄トシ一疊ノ網ヲ漁船ニ艘ニ分載シ各々六人乗組外ニ手船ニ艘合計四艘ノ船ヲ備ヘ漕出テ網船即チ左右ニ分レ網ヲ敷キ以テ繰リ揚ク但魚ノ脱去センヲ慮リ手船ヨリ竿ヲ以テ水ヲ叩キ魚ヲ網中ニ駈ツ入ルモノトス  
室津調

小鱸漁

建網 鰻魚建網ニ全シ

張網 鰯張網ヲ以テ鰯魚ト同時ニ漁スルモノトス  
津室

ヨ調  
ル查ニ

叩網 鰻魚叩網ヲ以テ鰻魚ト同時ニ漁スルモノトス

岩見ヨ調  
查ニ

鱸漁

張網 鰯張網ヲ以テ鰯魚ト同時ニ漁スルモノトス  
津室

ヨ調  
ル查ニ

釣 津名郡ニ全シ

第七款 有害漁法

春夏ノ頃揖東郡網于地方ヨリ當村地先八九海岸町ヨリ来リ  
 ゴチ網ヲ使用シ舷ヲ叩キ大聲ヲ發シ漁業スルモノアリ  
 該漁法ハ魚群ヲ散乱スルノ害アリヨ見岩以村調全查シ○ウ夕  
 セ網漁ハ其害甚ナカラズ然レ氏一回ノ漁業必ス多少ノ  
 収獲アリテ生計ヲ助クルト少ナカラサルヲ以テ之ヲ禁  
 スルト能ハス○中高操網ハ不良漁具ナルヲ以テ其使用  
 ヲ禁止セシモ備前地方ヨリ往々来リ使用スルモノアル  
 ヲ以テ蕃殖ヲ妨害スルト少ナカラス

第三章 蕃殖

第一款 生産期節

第二款 生産場

章魚烏賊ハ磯際海底ノ藻又海鼠ハ磯際海底小石ノ内ニ産卵ス  
室津調査

第三款 有害物  
 當津港内ニ於テ渾紫ヲ禁シ鰯魚ノ生育ヲ保護スルニ際  
 シ鵜、海馬、獺等来テ之ヲ害スルノ虞アリ然レ氏別ニ驅除  
 法ナク壺時々銃砲ヲ放テ之ヲ威スノミ室津調査

第三款 有害物

當津港内ニ於テ渾紫ヲ禁シ鰯魚ノ生育ヲ保護スルニ際  
 シ鵜、海馬、獺等来テ之ヲ害スルノ虞アリ然レ氏別ニ驅除  
 法ナク壺時々銃砲ヲ放テ之ヲ威スノミ室津調査

本村磯漁場中遠于瀉アリ其面積凡二三十町トス此處ハ  
雌海苔及ヒ牡蠣ノ養殖ニ適當セリ雌海苔ハ従来本村地  
方ニ産出シ其品質モ廣島産ニ比シ稍上等ナレバ人工養  
殖法ヲ施サバ蓋シ意外ノ収益アルベシ然レ氏資本金十  
分ナラズ為ニ尚ホ之ヲ果サ、ルナリ

茅四款 蕃殖ヲ謀ル場所

本村磯漁場中遠于瀉アリ其面積凡二三十町トス此處ハ  
雌海苔及ヒ牡蠣ノ養殖ニ適當セリ雌海苔ハ従来本村地  
方ニ産出シ其品質モ廣島産ニ比シ稍上等ナレバ人工養  
殖法ヲ施サバ蓋シ意外ノ収益アルベシ然レ氏資本金十  
分ナラズ為ニ尚ホ之ヲ果サ、ルナリ

前屋村調

第四章

漁民

第一 概況

營業ノ景況

濱田村 岩見村 室津

今ヲ去ル凡四五十年以前ハ捕獲ノ數多ク漁民概子其堵ニ安セリ然ルニ安政年間ヨリウタセ網漁業起リ其等ノ故カ將夕時候ノ適セサルカ爾來多クハ不漁勝トナリ夕リ後明治十二年ノ頃ニ至リ一時相當ノ捕獲アリ且ツ魚ノ價格騰貴シテ一旦愁眉ヲ開キシモ全十五年頃ヨリ一般ノ商況等不景氣ナルト共ニ復夕不漁トナリ漁業追々衰退シ十九年ノ如キハ僅カニ糊口ヲ凌クトモ為シ得サル有様トナレリ加フルニ近年漁業者頻リニ増加シウタセ網漁等不良ノ漁法彌々盛ナリ又價格ハ低下シ殆ント従前ノ四分ノ一ニ下リタル景

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible due to fading and ghosting. Some characters like '漁' and '民' are visible.)

况ニシテ非常ノ衰頽ヲ見ハセリ  
 蒔屋村  
 本村漁業ハ往古ヨリ御采網代場ヲ專有シ最モ漁權アリシモ中古以來概子農業ニ轉シ目今ハ僅ニ鮑網投網建網ノ三業ヲ營ニ近年ハ不漁且ツ低價ニテ非常ノ衰弊ヲ現ハスニ至ヒリ  
 以上各地ノ概況ヲ記述セリ尚左表ヲ掲ケテ郡内一般ノ状ヲ示スベシ

漁業概表

種別	曳網類 數疊	建網類 數把	縹網類 數疊
濱田村	五	九	
蒔屋村	三		
岩見村	一三		六六
室津	六	六四	三〇
合計	二四	七六	九六

漁民 數人	漁船 數艘	苟尾類 數箇	叉釣類 數挺	繩釣類 數桶	手釣類 數本	掩網類 數疊	旋網類 數疊	敷網類 數疊
一三四	五九		一〇五	一〇		五		五
六	五					一		
一四〇	一〇〇	一		三六			一	三六
二七一	一三八	二		一二	六〇		一	八
五五一	三〇二	三	一〇五	六八	六〇	六	二	四九

系

漁業者之種別左ノ如シ  
第二款 營業種別

種別	濱田村	新屋村	岩見村	室津	合計
鰯曳網漁者			一四〇	三九	一七九
鰯魚敷網漁者			四〇	八〇	一二〇
鰯魚打網漁者	一〇	二			一二
鰯魚小敷網漁者	九	三			一二
鰯魚網漁者	五〇				五〇
蛤拾	二〇				二〇
海鰯鉤	二〇				二〇
海鰯鉤			六	三	二九
海鰯鉤				六〇	六〇
直貢漁重			二	四	六

兵庫縣



漁業	白子網漁者	雌海苔漁者	鯨建網漁者	雜魚之網漁者	雜魚之網漁者	雜魚之網漁者	鯨張網漁者
濱田村	六〇	八五	〇				
新屋村							
岩見村	七〇			一四〇	六	六〇	七二
室津	五〇		一二		九〇	二五〇	七
合計	一八〇	八五	一二	一四〇	九六	一一〇	七九

又

備考

資本主 村君ト稱ス共ニ漁業ヲ営ム而シテ他ノ漁者自ラ仕込ムト能ハル者ニ常ニ米麥或ハ金錢ヲ貸與シ捕獲物ヲ以テ償却ヲナサシム但シ利子ヲ取ラス若シ其義務ヲ立テサルモノハ再ヒ貸與スルナシ但シ他村ノモノハ雇入又ハ臨時雇ニハ即金ヲ以テス室津調査

雇夫 漁期中普通漁者ノ使役スル漁夫ニシテ概子三月雇入レ十二月上旬ニ之ヲ解ク其掌ル職ニヨリ左ノ名稱アリ室津調査

船頭 鯨網ニ限ル之ヲ兼ハル櫓色見ノ合圖ヲ視テ漁夫ヲ指揮シ其他船中一切ノ事ヲ擔當ス

色見 鯨網一置ニ付六人ツハアリ山ニ登リテ魚ノ



